

Wonderful Wonder Rope

力む妊婦を助ける綱

分娩室の天井から吊るされた綱の使い方

産屋というのをご存知だろうか。出産時に妊婦が籠る小さな小屋で、中には力綱と呼ばれるワラ縄が吊るされていた。京都の福知山市に文化財として残されている。これに習ったというわけではないが、鎌倉市にある湘南鎌倉総合病院の分娩室には、その力綱のように綱が天井から吊るされているのである。「出産は自然なことです。土日も正月も休み無しです。この綱はより自然な分娩を促すために、妊婦さんが使用するんですよ」と当病院の助産師長、長谷川充子さんは言う。

湘南鎌倉総合病院には、分娩室は7部屋ある。その7部屋すべてに綱が吊るされている。陣痛を迎えた産婦が楽な姿勢をとるため、この綱にしがみつくのだ。



昔は木に抱きついたりすることもあったようだが、最近ではご主人や助産師さんにしがみついたりして、産婦さんは陣痛を紛らわす。痛みが和らいでいるときは立ち上がり、この綱に掴まりながら腰をゆっくりと動かしたりして、体をリラックスさせる。いかに自然分娩に持っていかかが、助産婦さんの腕の見せ所。



取材日の2日前に無事出産を終えられた小泉さん。そしてその腕に抱えられているのが、生まれたばかりの虹野くん。出産時に使用していた綱は、天井にコンパクトにまとめられている。

綱の使い方を実演してくれたのは、助産師のひとり、田中亜有子さん。月に100人前後の出産があるというこの病院で、より自然な分娩ができるように産婦さんたちのサポートをされている。

ロープこそ我が命